



花壇の作り方 (一)

東京女高師助教諭 大岩 金

花壇を造るに當りまして先注意しなければなりませんことは、豆科の植物即ちスキートビーの如きに就きましては既に申し述べましたやうに移植する事はそれ等植物のために好ましくない結果を來しますから花壇に直播をする必要があるものとせられて居ります。

その上豆科植物は空氣中の遊離窒素を根の根瘤バクテリアの作用に依りまして自分の生活の用に役立てます故、耕耘を充分にしておきますれば窒素肥料(豆粕、油粕、人糞尿の類)を特に施す必要はありません。加里肥料(灰、過磷酸石灰等)を少

量施せば充分であります。然し時に注意せねばならない事は此の豆科植物は連作を忌む事でありま

す。
連作とは同じ場所に毎年同種の植物を栽培する事でありませす。

豆科植物を連作致しますと其結果は第一に發芽歩合が大變に悪くなり又發芽しましたものでもそれは充分な成育をとげません。のみならず全く枯死する場合さへあります。其の害を幾分でも防ぎ得るのは加里肥料の力でありませす。然し完全な防

止の効はありませせん。従つて豆科植物の栽培に際

しましては毎年異つた場所を撰ぶと云ふ事が最も必要な條件であります。

依つて前にも申し述べました様に豆科植物は空氣中の窒素を利用致しますから土質は比較的瘠地でも豆科植物を始めて栽培する時は充分立派な成績かえられるものであります。そればかりでなく豆科植物を栽培した跡に澤山の窒素肥料を残すものでありますから瘠地には先づ豆科の花草を撰んで栽培するのが利益でありませう。

尙花壇に苗を定植するに當りまして豆科植物以外のものでも同一花壇に同一種類の植物即ちヒマハリとか菊とかの様なものは連作せぬ方が花壇の地方を保護する上に必要な點でありませう。然しこのことは前者の様に痛切の被害はありません。唯施肥を適當にする事で防止出来る事柄であります。

又地方の方面のみならず球根植物の如きは球根

を腐敗させる病氣「べト病」の様なものゝ蔓延する虞がありますから連作せぬ方が有利であります。これは極く集約的に栽培します場合には土壤の殺菌を行へば豫防する事は出来ませう。殺菌法として最も完全なものは大釜に土壤を入れて煮るのであります。簡単な方法としては定植する數日前に土壤の表面に石灰窒素を撤布しまして攪拌して置きましてもその効があります。

又連作に依つて害虫を増す事もある様であります。すが何れにしましても害虫の驅除と云ふ事は花壇を作る上に於て免かれる事の出来ないことでもあります。勿論各害虫に對して適當の藥劑を利用して害虫を驅除すると云ふ事は必要な事ではあります。がこゝに豊かな趣味のある害虫驅除の方法があります。その事に就ての詳細は項を改めて述べると致しましてこゝには唯野外鳥類の利用と云ふ事丈を申しておきます。

以上述べました事柄を念頭におかれまして次に記述致します方法に依つて花壇を造り苗床から苗を定植すれば宜しいと考へます。

尙注意すべき點は植ゑやうとする植物の習性即ち開花期、花の色、草丈等を充分知つておく必要があります。

そのうち前號に春蒔きのもの即ち夏から秋にかけての花壇に用ひますものは表示しておきましたからそれを御参照願ひます。又秋蒔きのものは後日述べることに致します。

さて花壇の種類から申しますとその分け方に種々あります。

イ、植込む植物の種類に依つて分ける方法

即ち薔薇を以つてする薔薇花壇。牡丹を主とします牡丹花壇。菊を植込みました菊花壇。球根植物を以つてしました球根花壇など色々に分けるやうであります。

ロ、季節に依つて分ける方法。

是はチューリップや水仙やヒヤシンスやアネモネやクロツカスなどの耐寒性球根植物やパンジー・ポツビー・デージー・アルメリア・花菱草・などの秋蒔草花を植込みます春花壇。カンナ・グラジオラス・ダリア等の春植球根植物や百日草・ルーピナス・ホーセンカなどの春蒔草花を以つてしました夏花壇コスモス・サルビヤ・アリッサム・トレニヤなど同じく春蒔きにしました草花を植込みます秋花壇とに分けられます。

ハ、形や色に依つて分ける方法

毛氈花壇、リボン式花壇等の名稱をつけて居ります。こゝではこの分け方によりまして申し述べたいと思ひます。然し實際に花壇を造らうと致します時には先づその住宅や植ゑやうとする植物の種類や数やその他四圍の状況に依りまして適當に工夫してゆくべきものでありまして必ずしも一定した型にはまつたものを造る必要はありません。それ故にこゝには個々の花壇に就きましてそのあらましを述べたいと思ひます。